

済生会新潟病院  
看護補助者 宮澤 文子 様

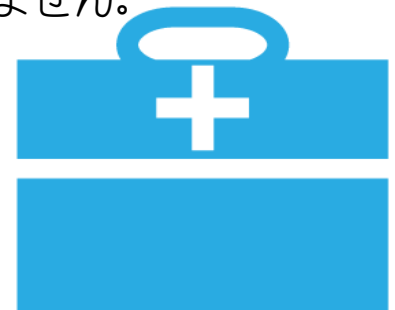
Q：自己紹介とこれまでの経歴を教えてください

A：済生会新潟病院で看護補助者として働いている宮澤と申します。  
前職は医療とは全く関係のない**事務職**をしていました。  
転職を考えていた際に、ハローワークで偶然「看護補助者」という  
見慣れない仕事を目にしたのがきっかけです。  
勤務場所や時間が希望に合っていたので思い切って応募し、  
自分にできるかどうか不安もありながらのスタートでしたが、  
今年で**5年目**を迎えることができました。



Q：未経験の分野への転職に不安はありませんでしたか？

A：入職当初はとても不安でした。ですが、医療はチームで行うものです。  
看護師さんや同じ病棟で働くスタッフと情報を共有し、常に「**報連相**（報告・連絡・相談）」を欠かさない  
ようにしています。  
困ったときには周りに相談できる仲間がそばにいたので、決して一人ではありません。



**Q：具体的な業務内容について教えてください**

**A：**患者さんと関わる業務が非常に多く、車椅子やストレッチャーへの移乗のお手伝い、着替えの介助、入浴介助、食事の準備や片付け、清潔ケアなど多岐にわたります。これらの業務は、看護師さんの指示のもと、スタッフと協力して行います。



**Q：お仕事をする上で、大切にされていることはありますか？**

**A：**入職したての頃に看護師さんから教わった、「できるだけ笑顔で接すること」「患者さんの負担を少なく、無理なく、素早く、羞恥心に配慮する」という言葉です。患者さんに寄り添う言葉としてとても大切にしています。

なかなか思うようにいかず落ち込むこともありますが、そんな時は仲間にアドバイスをもらいながら、次は上手くやろうと自分に言い聞かせています。





**Q：患者さんとの関わりの中で、心がけていることはありますか？**

**A：**医療行為はできませんが、業務の差し支えない範囲で**患者さんのお話を聞く**ようにしています。  
キツイ治療やリハビリを頑張って笑顔になってほしい、という思いからです。  
看護師さんには直接言いにくいことも相談を受けることがあります、  
その際は師長さんや看護師さんに伝えて、心配事を取り除くお手伝いをしています。

**Q：この仕事をしていて、一番嬉しいと感じる瞬間はいつですか？**

**A：**やはり、患者さんから「ありがとう」と言っていたけるときです。  
入浴介助の際に「気持ちよかった、またお願いね」と言われたり、退院が決まった患者さんから「あなたに会えなくなるのは寂しいわ」と言っていたけるときだと、本当に嬉しいです、励みになります。  
また、看護師さんからかけてもらう「ありがとう」という言葉も、モチベーションに繋がっています。

**Q：最後に、看護補助者の仕事に興味を持っている方へメッセージをお願いします**

**A：**異業種からの転職は特に不安が多いと思いますが、周りの皆さんに助けをもらいながら、私も今日まで続けてこられました。  
大変なこともあります、仕事を通じて新しい知識や視野が広がりました。  
私自身、考え方や見え方、気持ちの持ち方も変わり少し成長できたと感じています。  
少しでも「看護補助者」という仕事に関心を持って、やってみようと思って  
いただけたなら嬉しいです。

